

2010~2011年度 IM第4組報告

東大阪東RC 会長 石田 肇
IM実行委員会 委員長 北川 忠嗣

テ ー マ：「人と環境最前線」～人と自然の共生を目指して～
ホ ス ト：東大阪東RC（会長 石田 肇）
日 時：2011年2月12日(土)
場 所：シェラトン都ホテル大阪
参加クラブ：八尾RC、大阪柏原RC、八尾東RC、八尾中央RC、
東大阪RC、東大阪中央RC、東大阪西RC、
東大阪みどりRC、大阪ネクストRC、東大阪東RC
出席者数：290名（登録会員数417名）



今世紀の重要課題の一つが、環境問題です。特に地球環境問題は、貧困や紛争などと並んで、主要な国際政治問題、社会問題の一つと位置付けられています。2010年RI規定審議会の決議案においても、「環境問題に対する認識を高めることを検討するようRI理事会に要請する件」として採択され、ロータリーの価値とは、環境悪化の影響を最も受けやすい貧しい人々や恵まれない人々を援助することとしました。

今年度のレイ・クリンギンスミスRI会長は、「地域を育み、大陸をつなぐ」をRIテーマとし、その実行目標の中に「疾病予防と治療」「水と衛生設備」を入れています。最近のロータリーの方向は、「環境問題」に対する認識を高めるようになってきています。今回私たちは「人と環境最前線」～人と自然の共生を目指して～をテーマに基調講演とシンポジウムを企画しました。

【基調講演】

プロスキーヤーでクラーク記念国際高等学校校長の三浦雄一郎氏から「世界最高峰から見た地球環境の変化」のテーマで基調講演を頂きました。世界最高峰から地球を眺め、大気の様子、大地の動きや季節の移ろい、森林破壊、大気汚染等、地球上で起こっている多くの変化を目のあたりにして、地球の温暖化を肌で感じ、地上5000m以上の標高となると酸素が半分になり、人類は子供を作れない、このまま地球の温暖化、二酸化炭素の増加、地球の砂漠化で、やがて平地でもヒマラヤの高地同様に酸素が少なくなる可能性があると話されました。

【シンポジウム】

「人と環境それぞれの取り組み」

コーディネーター：溝畑正信氏（東大阪東RC会員）

シンポジスト：中園直樹氏
（神戸大学大学院教授 神戸北RC会員）
宮澤三雄氏
（近畿大学理工学部教授 東大阪東RC会員）
中東 弘氏（枚岡神社宮司）

中園直樹氏は、「途上国での水の確保と衛生設備」で、ロータリー活動を通じて関与した水、トイレのプロジェクトについて

実例を挙げ、写真にて紹介されました。カースト制度のため水を独自に工面しなければならないネパールでの例、タイの山岳地帯の少数民族の小学校への雨水タンクとろ過、ラオス小学校へのタイのロータリーとの共同支援等々を紹介されました。

宮澤三雄氏は、「香りのカーセルフメディケーション時代への新展開」で“香り物質”を嗅覚的刺激としての効果だけでなく、機能的価値を科学の目で検証し香りの物質の可能性を探求することにより人々の生活環境を香りの力で向上させる時であると話されました。

中東弘氏は「神道と先人の知恵」で、生物は連鎖しており独自では生きられない、太陽や、大地や、虫や、微生物や、水等々のおかげを受けて生かされているのである。命の水の湧き出る山や社に神社を祀り、神聖な場所として確保してきたために、豊かな自然が残されたと話されました。

各シンポジストの有意義な発表、その後フロアからの活発な質疑応答がありました。

シンポジスト、出席の皆様との討議を通じ、自然を崇め守る古来からの伝統文化を持つ日本、変化にとんだ海岸線、多くの火山、豊かな雨、生物の多様性、国土の60%以上を覆う森林、これらの恵みを持つ日本は、環境保全と持続可能な暮らしづくりの分野で世界のリーダーとなっていくべきでしょう。環境保全という問題は、ロータリー活動において、大変重要なテーマになってくると思います。私たち一人一人が地球環境保護という問題に、ロータリーの叡智を傾け、住みよい地球環境に奉仕活動を実践していきたいと考えます。

終了後の第2部の懇親会では、多くの皆様方が参加され、にぎやかに、会場のあちらこちらで楽しい交流の華を咲かせていただきました。

